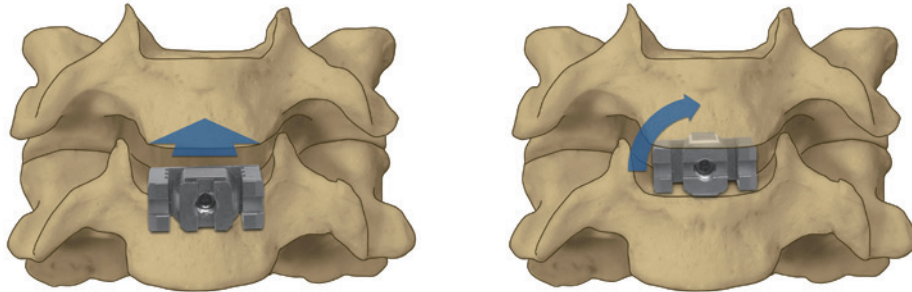


# m-cage SR

頤椎前方固定用チタン製ケージ



## Indications



### 使用目的

エム・ケージSRは、脊椎頸部の疾患による変形、不安定性に対して固定するために用いられます。

### 適応

頸椎症、頸椎椎間板変性、頸椎椎間板ヘルニア等に用いられます。

## Surgical Technique

### 1 展開

通常の頸椎前方固定術の方法に従い椎間板へ到達します。

### 2 Total Discectomy

通常の方法でTotal Discectomyを行います。椎体前面を十分に露出し、前面の骨棘を取り除きます(図-1)。軟骨終板は十分取り除き、骨性終板は削らないようにします。椎間板が狭小化している場合は、Discectomyをしながらスプレッター(図-2)等で徐々に広げていきます。

### 3 除圧

必要な除圧を行います。

### 4 サイズの決定

除圧後にトライアルをハンマーで軽く打ち挿入します。トライアルが軽く固定されていればそのサイズとなります(図-3)。強く固定されている必要はありません。

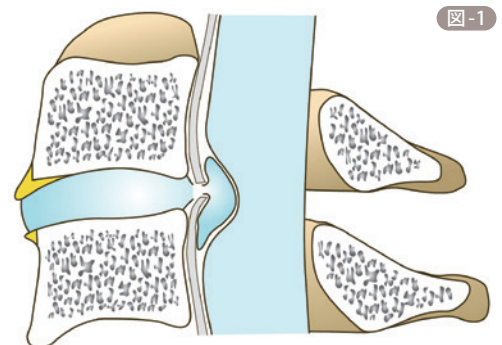


図-1



図-2

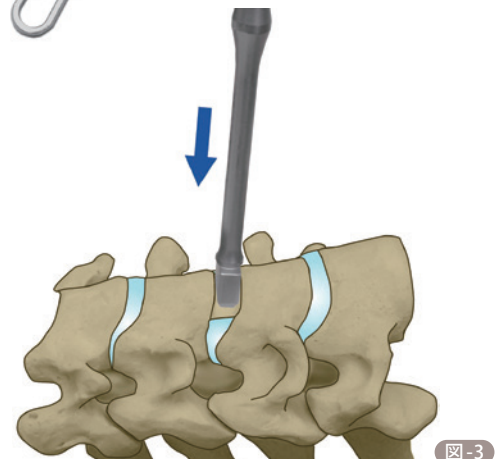


図-3

5 インプラントの準備

インプラントにインサーターバーをねじ込みます(図-4)。インサーターバーを回転させインプラントの突起が出ていないフラットな状態にします。



図-4

6 インプラントの挿入

椎体間はスプレッター等で適度に広げておきます。インサーターバーでインプラントを椎体間に挿入します(図-5)。インプラントの前面が椎体前面の皮質骨を支えられる位置で止めます。必要に応じてインパクトによりインプラントの位置の微調整を行います。イメージなどによりインプラントが正しい位置にあることを確認します(図-6)。

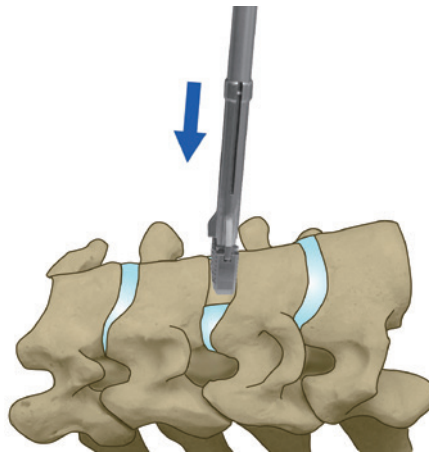


図-5

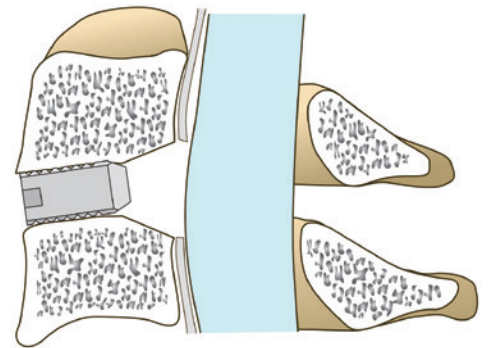


図-6

7 インプラントの固定 (1)

レンチでインプラント内部を90°回転させます(図-7)。回転方向は、楽に回る方向を選びます。インプラントが不安定な場合は、スライディングストッパーでインプラント外側を把持した状態で回転させます。

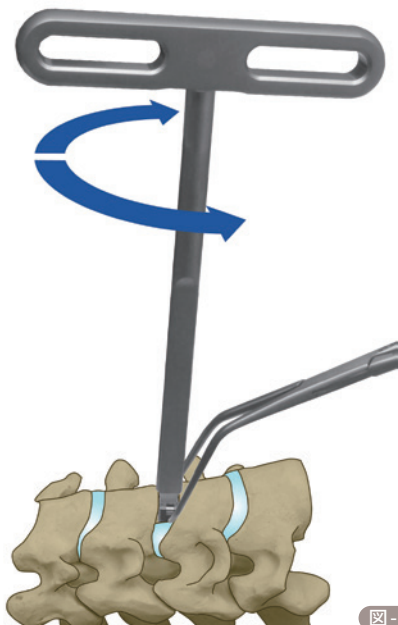


図-7

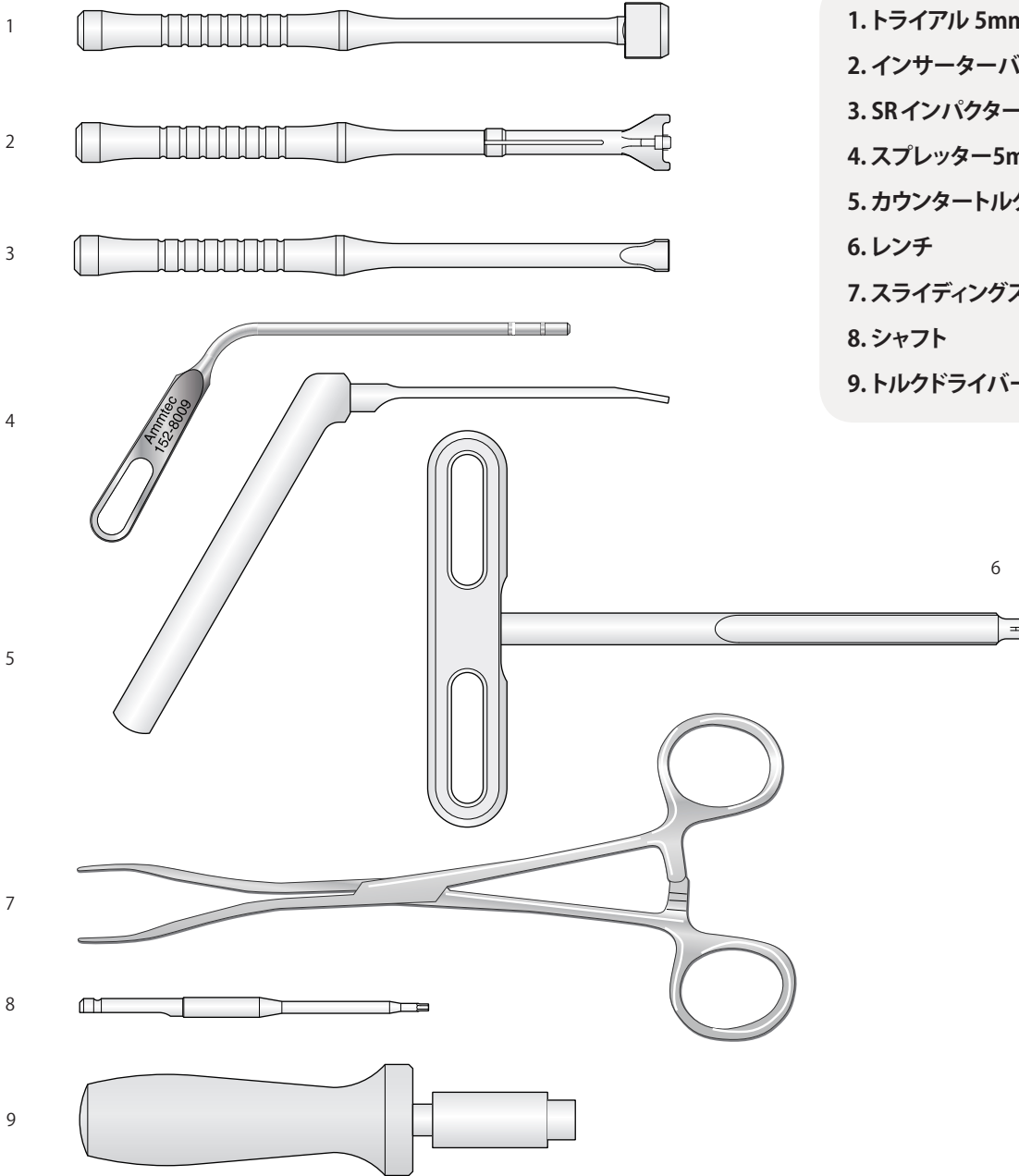
8 インプラントの固定 (2)

カウンター・トルクをインプラントの切り欠きに差し込みます。トルクドライバーで固定用ネジを締め付けます。カチッと音がしたら完全にロックされています。それ以上は締め付けしないで下さい(図-8)。



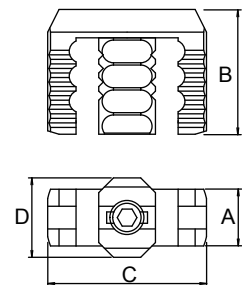
図-8

# Instruments & Implants



1. トライアル 5mm, 6mm, 7mm
2. インサーターバー
3. SR インパクトター
4. スプレッター 5mm/6.5mm
5. カウンタートルク
6. レンチ
7. スライディングストッパー
8. シャフト
9. トルクドライバー

製造番号	製品名	A	B	C	D	機能区分名
153-0514	エム・ケージ SR 5x11x14mm	5mm	11mm	14mm	7mm	人工骨・AB-14
153-0624	エム・ケージ SR 6x12x14mm	6mm	12mm	14mm	8mm	人工骨・AB-14
153-0724	エム・ケージ SR 7x12x14mm	7mm	12mm	14mm	9mm	人工骨・AB-14



届出番号:13B1X00170000535 販売名: m-cage SR手術器具システム 区分:一般医療機器・クラスⅠ  
承認番号:22900BZX00331000 販売名: m-cage SRシステム 区分:高度管理医療機器・クラスⅢ

本製品の品質、本質、耐久力、信頼性、安全性、効果又は効能に対する苦情は、株式会社アムテックへ連絡をお願いします。  
また、本製品の機能不全が原因で患者に重篤な障害を生じた場合には、速やかに通知をお願いします。